

学生時代を振り返って

村井：今日は、大学時代の同級生で、テレビなどでも幅広く活躍されている三浦瑠麗さんと、「令和の子育てと教育」と題してお話をさせていただきます。三浦さんは、歯に衣を着せないコメントで有名ですが、今日は、同じ子育て世代として、今後の政策の方向性を一緒に考えていきたいと思えます。

三浦：村井さんは、大学時代、夫とゼミが一緒でしたよね。思いがけず、政治の世界に挑戦されて。大学卒業後、再会したのが、3年くらい前だったかな。

村井：そうそう。旦那さんとは、国際政治のゼミが同じで、一つ上の先輩だったので、色々教えてもらいました。あとは、一度渋谷のお洒落なイタリアンのお店に連れて行ってもらったのが印象的です。

三浦：あ、そうなの。私、多分その店知らない。後で聞いておきます（笑）。それにしても、村井さん、頑張っているよね。自民党の若手議員って多士済々だけど、村井さんは、幅広い分野の政策作りで中心的な役

割を担っていて、期待している方は多いと思う。ジャーナリストの田原総一朗さんなんて、「俺は政策的に分からないことは、何でも村井さんに聞くんだ」って断言しているしね。

村井：そう言って頂けるのは大変ありがたいです。ただ、自民党っていうと、長老支配のイメージも強くて。少しでも、我々世代の感覚やスピード感が、政策に反映できるように努力しています。壁にぶつかりながらですが。

三浦：確かに。与党議員ってどうしても、派手に政府批判するわけにもいかないし、スキャンダル以外で、メディアに大きく取り上げられることも少ない。世間の方には、村井さんを始めとする与党若手議員の地道な頑張りも見たいですね。

コロナ禍の子育て・教育

村井：三浦さんは、お嬢様との3人家族でしたよね。仕事との両立が大変なことはありますか？

三浦：小学校4年生の娘が一人いますが、凄く苦労したのが子供がゼロ歳の時。切迫早産だったし、不安定な働き方だったこともあって、産休

もろくにもらえない中、仕事しながら育てました。ただ、大学内の保育所に入れてからは、少しずつ楽になってきた。村井さんは、息子さん3人でしょ。家事とか育児はどうしてるの？

村井：食器洗い、お風呂洗い、ごみ捨てなどをしています。あとは、休みの日に子供達を公園に連れて行ったり。コロナの前は、土日も地元のイベントに出席するので、1年間ほぼ休みがなかったのだけど、コロナで、家族と過ごす時間は長くなりました。夕飯も家族と一緒に食べられることが増えたり。

三浦：確かに、国会議員はやや特殊な例かもしれないけど、コロナ禍で家族と過ごす時間が増えたという声は聞きますね。ただ、子供達にとってのマイナスも大きいと思う。地元でも色んな話を聞くでしょ。

村井：子供達がゲーム漬けになっている、修学旅行や部活動の大会がなくなってしまった、というのはよく聞きます。また、先日も地元の中学校を視察しましたが、給食の時間に誰一人喋らずに、前を向いて、黙々と食べていて。しかも、その中学校では、一人ずつ、ビニールハウスみ

たいなもので囲いを作って。その姿を見た時は、「ここまで生徒達にお願いをしているのか」とショックでした。コロナとの闘いは、最終的にはワクチンを一定数以上の方に打っていただかないと終わりません。ワクチン接種を一刻も早く安全な形で進めないと、という思いを改めて強く持ちました。

三浦：自民党のワクチンプロジェクトチームのメンバーだもんね。河野大臣とも親しいわけだし、速やかなワクチン接種体制の整備をお願いします。

求められる人材像と 幼児教育・保育の重要性

村井：子供を見ていて、「この子供達が社会に出るころには、世の中どうなっているかな」とよく考えます。コロナ後も、デジタル化が進み、「20年後は今ある仕事の半分がなくなる」とも言われる中で、親としては不安なことも多いと思います。

三浦：私は、こういう時代だからこそ、「自我」が一番大事だと思います。自我の育て方を間違えてはいけません。特に、女の子は、わがままを

同級生対談「令和の子育てと教育」

衆議院議員

国際政治学者

村井英樹 × 三浦瑠麗

言わないように、と育てられることが多いけど、わがままがないと、自分が何をしたいかわからない。自我というのは、自分のやりたいことを持ち、自分というものを持っているということですが、同時に、私たちは、他の人に認められて満足感を得るので、他者と共存共生して初めて自我の意味があるわけです。だから、その感覚を育てていくことがとても大事。子供が進んで内省できるようにすること、そして自分自身のことを好きになるということを両立していこうとしています。

村井：おっしゃるように、AIが発達し、機械が人の仕事を代替する時代でも、自分のやりたいことが明確な子供は、たくましく生きていくことが出来ると思います。これからの時代は、AIが得意とする記憶力や計算力よりも、「やりぬく力」や「自己肯定感」などの基礎的な生きる力、いわば非認知能力が大事になりますね。そして、こうした能力は幼児期に固まると言われていますので、幼児教育・保育の充実が大切です。今、社会全体で思い切って投資すべきは、ここだと思います。私もライフワークとして取り組んできていまして、2019年10月から始まっ

た幼児教育・保育の無償化は、担当の大臣政務官として実現に漕ぎつきました。

待機児童をなくすために

三浦：幼児教育・保育の無償化は実現したけど、待機児童問題ってなかなか解決しませんよね。さいたま市も多いんじゃないかしら。

村井：さいたま市の直近の待機児童数は、387人で全国最多です。さいたま市は、昨年度も61保育施設を整備して定員を3500人増やし、2万7400人分の保育の受け皿を整備しましたが、保育希望者がそれ以上のスピードで増えていて、待機児童が大きくは減っていないのが現状です。

三浦：そうなんだ。でも、待機児童対策って、自治体の協力がなくて出来ませんよね。

村井：おっしゃるように、地方自治体や民間事業者の協力が不可欠です。特に、今後の待機児童対策で一番重要なのは、各自治体の計画的な街づくりです。例えば、大規模なマンションが一棟できると、子育て世代がたくさん入居されますので、どうしても待機児童が発生します。大規

模マンションの建設を許可するなら、保育所の併設をお願いするなど、自治体の計画的な街づくりが必要です。

学童保育制度の充実を

三浦：子育て世代として更に進めたい政策は？

村井：子育てをして実感したのは、社会全体で子育てを支える必要性です。昭和の時代は、私の両親もそうでしたが、夫が仕事、妻が子育て、という分業が一般的でした。しかし、令和の時代は、共働きが当たり前になっています。また、祖父母が近くに住んでいないご家庭も増えていきます。こうした中で、**子供を安心して産み、育てられる社会とするためには、社会全体で子育てを支えることが必要**です。

安倍政権では、その第一歩として、

三浦瑠麗さんプロフィール

国際政治学者。シンクタンク株式会社山猫総合研究所代表。1980年茅ヶ崎市生まれ。東京大学農学部卒業、同大学院法学政治学研究所修士。博士（法学）。著書に『日本の分断-私たちの民主主義の未来について-』など多数。

保育の受け皿拡大や幼児教育・保育の無償化を進めました。残された課題の一番は、学童保育制度の拡充です。学童保育は、従来保育の必要がある一部の方向けの「生活・遊びの場」とされ、財政支援も限定的なものに留まっています。しかし、子育ての形が変わる中で、さいたま市内でも学童の待機問題が発生するなど「量」と、学びや習い事など教育的要素も含めて欲しいといった「質」の両面に課題があります。**学童保育制度の拡充を抜本的に進めることが、次の政策目標です。**

デジタル化時代の 初等中等教育の方向性

（スペースの都合で、ここから先は、4月11日の村井英樹ブログに掲載しております。是非ご覧ください。）

